

「IgG4 関連甲状腺疾患の診断基準（改訂案）」

A. 診断項目

I. 甲状腺腫大がある

II. 画像所見（超音波検査における甲状腺内の低エコー領域拡大）

III. 血清学的所見：高 IgG4 血症 (≥ 135 mg/dl)

IV. 病理組織学的所見：高度のリンパ球、形質細胞の浸潤と線維化を認め、強拡大視野あたり 20 個を超える IgG4 陽性形質細胞浸潤かつ IgG4/IgG 陽性細胞比 30% 以上

V. 甲状腺外病変：甲状腺以外の臓器の病理組織学的に著明なリンパ球・形質細胞の浸潤を認め、IgG4 陽性形質細胞が 10/HPF を超える、あるいは IgG4/IgG 陽性細胞比 40%以上である

B. 診断

1. 確定診断：I + II + III + IV

2. 準確定診断：I + II + III + V

3. 疑診：I + II + III

「IgG4 関連疾患の診断基準ならびに治療指針の確立を目指す研究」班

内分泌神経領域分科会メンバー

リーダー：赤水 尚史

班員：

竹島 健 和歌山県立医科大学内科学第一講座

覚道 健一 近畿大学医学部奈良病院

李 亜琮 泰山大学医学部病理学

廣川 満良 医療法人神甲会隈病院 病理診断科

西原 永潤 医療法人神甲会隈病院

島津 章 国立病院機構京都医療センター臨床研究センター

高橋 裕 神戸大学大学院医学研究科 糖尿病内分泌内科学

河内 泉 新潟大学脳研究所・医歯学総合神経内科

八木 邦公 富山大学第一内科

吉良 潤一 九州大学大学院医学研究院神経内科学

<附記>

- IgG4 関連甲状腺疾患は、甲状腺限局病変を呈する IgG4 甲状腺炎、全身臓器病変を伴う Riedel 甲状腺炎、多臓器病変を合併する IgG4 関連疾患に伴う甲状腺病変などを含む疾患群であり、その病態は一部が重複すると推定される。
- 感染、アレルギー性疾患、悪性腫瘍（癌、悪性リンパ腫）、自己免疫性疾患などでも血清 IgG4 高値を呈することがあるため慎重に鑑別する必要がある。
- **IgG4 甲状腺疾患では、甲状腺エコーで無エコーから顕著な低エコーを呈する領域がびまん性もしくは領域性に見られることが多い**

<参考文献>

日本甲状腺学会雑誌 10 巻 1 号 「特集 2. 甲状腺疾患と IgG4 関連疾患」
(<http://www.japanthyroid.jp/member/index.html>)
Li Y, Kakudo K et al. Thyroid 2019 (in press)